

■茨木重謙 民政家。若い時に藩法を超えて民政に尽くすも、急な改革で民意が動揺し失脚、全国放浪の後に復活した。

いばらきじゅうけん

意次側用人・1767= 生。伊勢国津藩士茨木重光の次男。

田沼意次老中1772= 5歳 :

雨月物語刊・1776= 9歳 :

蘭学階梯・・1783=16歳 : 父の隠退後、大小姓加役、

蝦夷初調査・1785=18歳 :

田沼意次失脚1786=19歳 :

初の横綱・・1789=22歳 : 勘定頭役、

異学の禁・・1790=23歳 : *郡奉行になると、庄屋からの雲林院灌溉用水路井堰改築の申請に対して、実地踏査の上、溝88間の開設と、従来藩法で禁止されていた板堰を許可。雲林院村民はその功績を謝し、井ノ宮神社を建て祭祀する。

松平定信引退1793=26歳 :

オランダ正月・1794=27歳 :

この外、_塔世川を改修し、下流に松本新田をつくる。また藩財政の立て直しを建議し、
ポルトガル来航・1796=29歳 : *切印金弁済百年、公租滞納金等の一切無期延期を断行。障害になる木を除く影切を行ない、貧農救済のために均田の実施を命令するなどしたが、急激な改革に対し民意が動揺、質地取戻しの農民一揆が起こり、

古事記伝・・1798=31歳 : *知行および屋敷が取り上げられ、蟄居を申付けられる。

膝栗毛始・・1802=35歳 : _放浪の旅に出、

アメリカ船来航始1803=36歳 :

10年の全国遍歴ののち、

高田屋拿捕・1812=45歳 : _藩主藤堂高免の命により召還され、もとの禄高に復して、

伊能測量終・1816=49歳 : _没した。

「耕雲詩種」「あきの夜」「陸奥日記」「但馬日記」「但馬紀行」「出湯雑録」「紀州日記」「午睡の友ども」。